

自分のしたいことがわからない

職安の窓口で

係官（女中に） さて、もう三度も繰り返してご希望を説明していただいた訳ですが、あなたがそもそも何を望みなのか、まだよくわからないのです。私の理解が正しければ、あなたは三力所で通いの家政婦として働いておられるが、それを今度、養老院での仕事に変えたいというのですね。

女中 いいえ。私は現在すでに女中として働いています。ですが、今度、つきたいと思っている養老院の仕事はまだやったことがありません。というのはローレンツさんが、そのお宅で私、もう五年近く勤めているのですけど、その方が私に言うんです、まだ職安に行っていないなら、行けば職をもらえるわ、もしアセツソアーさんが承知してくればって。私、このお宅にも通っていますの。

係官 ですから、あなたは三力所で働くかわりに、養老院でお勤めしたいのですね。

女中 ちがいます。そうでなくてもいいんです。私、そうすぐには決心がつかみませんから。同じ建物に住む女の人が言うんです。よく考えなさいよって。こういう一歩って、とても危険が伴うからって。この人のご主人は市役所にお勤めで、こういう問題をよくご存じなんです。この方は考え直せるのなら、どうしてそうしてはいけない？っておっしゃいます。

係官 それで？ 市役所が何の関係があるのです？ この件は職業安定所の仕事ですよ。あなたは仕事についておられる、そして、転職を申し出ておられるんですよ、でもどうもよくわかりかねます。今月の一日付けで三つの職場に退職通知をしたいのですか？

女中 いえ、その必要はありません。さしあたりまだ続けますので。一つの勤め口の方が三つの職場より絶対に好ましいでしょうけどね。

係官 これは驚きましたな。その必要はないのだとすると、あなたはいったい、ここに何の用事があるのです？

女中 パイファーさんがおっしゃるんです、職安に行ってみた方がいいって。

係官 それで、あなたはいったい、何をお知りになりたいのですか？

女中 パイファーさんがおっしゃったんです、職安にいけばいつでもいろいろ教えてくれるわよって。

係官 何についてなのかわかれば、そりゃあ、教えてあげられますよ。しかしですね、あなたご自身、ご自分のなさりたいことがわかってないようにお見受けしますが。

女中 その通りです。

係官 その通り、ですって？

女中 私、退職通知を出した方がよろしいでしょうか？

係官 もし、養老院の仕事をなさりたいのなら、今の職場に通知しなければなりません。通知なしで、逃げ出す訳にはいけませんから。

女中 通知するのは気が進みません。結局、養老院は私に合わないかわかって、そして退職通知を済ませていたら、いやでも応でも、その職につかなければなりませんもの。

係官 でもあなた、さつき、おっしゃったじゃありませんか。三つの職場より一つの方が好ましいって。

女中 それが良い勤め口なら、もちろんそうです。私が今のままでいいのは、皆、良い人ばかりだからでもあるんです。もし私が辞めるって言ったら、皆、悲しむわ、私、そんなのいやですわ。

係官 その良い方たちが、あなたを辞めさせたがらしないとすると、その人たちにはあなたに満足しているのですね。

女中 もちろんです。あの方たちと仲たがいしたくありませんわ。

係官 それなら、今のお仕事をお続けなさい。

女中 でもパイファーさんがおっしゃるんです。職場はいくらでもあるのだから、よく考えた方がいいって。それに、私の婚約者が、おそらく結婚することになると思いますけど、フィンケンツェラーさんにこう言ったんです。もし結婚したら、私はもう働かなくていいって。

係官 それなら、結婚しなさい。

女中 結婚？ いいえ。まだ考えてません。結局、うまくいかなかたら、私、また働きに出なければならぬ。それなら最初から一人の方がいいですわ。

係官 それなら、一人でいなさい。でも、もし結婚するんだったら、職業安

定所ではなく、戸籍役場に行くんですよ。

女中 でも、婚約者は何が何でも結婚したがってるんです。

係官 それなら、何が何でも結婚なさい。

女中 結婚はいずれにせよしますわ。だって、よその人たちのところであくせく働くよりも、自分の家庭の方がいいと思いますもの。

係官 お嬢さん、本題に戻りましょう。話がどんどん横にそれてしまいました。いったいあなたは何をなさりたいのですか？

女中 養老院の面接はもう受けたんです。その時、オベリンさんが、仕事はとも多いとおっしゃいました。私は、それは平気だ、もし今のところを辞めたら、一日からだって働けると、言いました。でも、とてもじゃないけどいやです。私は馬鹿ではありません。

係官 すると、あなたは養老院に移りたくはないんですな？

女中 移るつもりはあるんです。でもしばらくつけられるのはいやなんです。

係官 いよいよわかりませんな。

女中 パイファーさんがおっしゃるんです。養老院は市立よって。で、中に入ると、なかなか出られないわよって。

係官 そこに雇われたら嬉しいいんではないんですか？ 私にはあなたがそこに入ろうと入るまいとどっちでもいいですけどね。いったい何をなさりたいのか、このへんで言っておさいよ。

女中 職安の証明書がほしいんです。

係官 何の証明書ですか？ 確認書のことでしょうか？

女中 退職通知をしたらその職場に移らなければならぬかどうかの。

係官 退職通知をするのは転職すると決心したあとでいいんですよ。ご理解いただけませんか？

女中 いつまでに決心すればよろしいんですか？

係官 いつまでに？ そんなこと知りませんよ。ご自分で決めることですよ。

女中 そんなにすぐには決心したくないんです。だって私、婚約者がそれに賛成かどうかわからないんですもの。あの人、絶対に養老院の仕事をするべきだって言うなら、そしたら私、そつしたいんですけど。

係官 もうそろそろ、結論を出して下さい。私には、他にもやることあるんですから。

女中 そうしたら私、パイファーさんに、職安に来たと伝えた方がいいでしょううか？

係官（どなりつける）　そうです！　伝えなさい！！！！

女中　どうすべきかもう一度よく考えてみます。それからまた参ります。

係官　やれやれ！！！！　それならもう考えてみて欲しくありません。